



百人一步通信

～「一人の百歩より百人の一步」の社会を作ろう～

【発行】 今井和夫とともに歩む「百人一步の会」

【代表】 今井和夫 (宍粟市市議会議員)

〒 671-3211 兵庫県宍粟市千種町岩野辺 1065

☎ 090-9610-2511

✉ tamago@imaifarm.jp

農業・農地を大事にしない国は人の命・暮らしも大事にしない。みんな共通している。農地は農家だけの問題ではない。

桜もほとんどのところで散りました。真っ青な空が広がりさわやかで、ちょっぴり冷たい春の風がほほの上を流れていきます。春本番になってまいりました。皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

農家の方は農作業が忙しくなっていることでしょう。田植えも間近です。

議員にならせていただいて丸2年。精一杯やっているつもりなのですが、本当に思うような活動ができず、歯がゆい気持ちでいっぱいです。この通信も もっと出したいと思うのですが、なかなかです。とりあえず、2年たった**現時点での思い**を簡単ですが書かせていただきます。(大きく2つです)

地域ごと(旧町単位とか)の自治の仕組みをもう一度作りなおすこと

まず、一番に思うことは「宍粟市は広すぎる～」です。淡路島よりも大きな面積、気候も人の状況もかなり違う。このように違う広い地域を一つの制度でやっていこうとするのはかなり無理がある。それぞれの地域にはそれぞれの良さがある

るがそれが消えてしまうのではないか……。そんなことを強く思います。

合併してから「宍粟はひとつ」を合い言葉に様々な努力されてこられたと思いますが、**やっぱり「宍粟は4つ」**の面も多いのです。**いや、もっとかも**分かりません。なにも宍粟を壊そうとして言っているわけではありません。当然一つにまとまっていた方が良いことも一杯あるのでそれは進めれば良い。しかし、住民が主体的にまちの制度や仕組みを考えるには宍粟市というエリアは広すぎます。遠くのところのことは分からないのが現実です。

ゴミの収集回数も地域単位で考えよう

例えば、ゴミの収集回数の問題。地域によって週2回収集をしてもらいたい要求度は違います。一週間、特に生ゴミや紙おむつを家の中に置いておくのは非常に困難です。そのように困っているところでは一日も早く週2回収を実施すべきです。

しかし、家の外に出しても問題のないところ、畑などが近くにあり生ゴミも処理できる場所など、週1回でもそんなに困っていない地域も多くあります。そんなところは「週2

(千種町内)自治会懇談会と消防団回りでいただいたご意見

昨年12月、千種町内ですが、全自治会で懇談会を持たせていただきました。(116人の方に来ていただきました。)また、消防団の年末警戒に回り懇談もさせていただきました。大変遅くなりましたが、その時いただいたご意見の中で千種町個別以外のものを、いくつか載せさせていただきます。まちを考える一助になればと思います。

1. 人口が減り自治会もやっていけなくなる。旧町単位で考えていく体制づくりを。
2. 自治会への助成金を上げてほしい。公共施設の水道料金などの割引はできないか。道路の街灯なども自治会管理のところは消えていった。
3. 補助金がないと農業は続かない。農地は守れない。農業の所得補償制度の実現を議会としても要求して欲しい。
4. 獣害対策の柵 補助が一農会一申請と言わず、他の農会がやっていなければ二件でも三件でも一つの農会でやらせて欲しい。
5. 獣害 防護柵 山にするのではなく、田んぼの団地ごとにするべき。補助率も上げて欲しい。
6. サル害をなんとかしてもらいたい
7. 農業に関しての話は月一回位で、もっと大きな単位で集まって勉強会のようにしていけないか。人が増えていくのではないか。
8. 若者の仕事 北部での就労先が少ない。
9. 通勤費の助成が欲しい。
10. 山崎ICの近くに「道の駅しろう」をぜひ作ってもらいたい。観光と市内の産物を市民が買う(市内循環)場所として有効。
11. 宍粟総合病院は何としても存続してもらいたい。北部地域に住む者にとって非常に大事な病院。特に夜間診療、産科、小児科など。
12. 田んぼ、いつも同じところが災害に遭う。回数に合わせて助成割合を増やしていくとか、何とかできないだろうか。
13. 市民局の建て替えより住民の生活に関すること、今まさに困っているようなところにおカネを回して欲しい。
14. 志引峠(千種町～岡山県美作市)のトンネルを開通してもらいたい。
15. 市営住宅を建てたら若者が定着するのではないか。
16. しーたん放送をもっと地域の行事、案内、話題を言うことに使えないか。市民局単位の動きをどんどん知らせて欲しい。
17. ドクターヘリ専用のヘリポートを作ってもらいたい。
18. コインランドリーが欲しい。特に冬場。
19. JAスーパーがなくなれば困る。
20. 税金を払っていない者へしっかり対処してもらいたい。
21. 各市民局が独自で使える予算を置く。金の使い方を変えるべき。
22. 昔は寄合が多かった。小さい単位でもっと集まる必要がある。
23. 限界集落に近くなっていくと一人暮らしの老人が増えてくる。シェアハウスのようなものを作ることを考えてもいいのではないか。
24. 市独自で学生への奨学金ができないだろうか。地元に戻ってくることを条件に。
25. 食の教育が大事。
26. 地域の悪い所をあげつらうのではなく、いいところも一杯ある。犯罪も少ない。
27. 北部から山崎へ移住する若者が多いが、北部に住みたいと思うようになる補助金はないだろうか? 北部優遇の補助制度を作ってもらいたい。
28. 議会は国政に対しての意見表明(消費税増税反対決議など)をして欲しい。

回収にかかる費用はもっと必要性の高い別のことに使ってもらいたい」と考えます。

旧千種町においても、商店街だけは週2回収をやっていました。そのような細かい対応が考えられるのは、狭い目の届く範囲です。

地域単位ごとに予算も決められる仕組みを

このように旧町単位くらいで、もう一度自分たちのまちの制度を考える仕組みを作っていく必要があるのではと痛感します。それができれば、各地域ごとに予算をつけることもできます。

それが地域ごとの良さをしっかり生かした、おカネだけではない人のつながりを生かした、ムダのない暮らしづくりであり、また、地域のまとまり、郷土愛「地域に帰ろう」という気持ちを作っていく原点のように思います。

各地域がそれぞれに自分たちのまちを考え、決める自治の仕組みを持ち、その連合体として大きな宍粟市がある。そんな仕組みが、宍粟市のような広大な面積で合併したところには必要なのだと思います。これがないと北部はなし崩し的に崩壊してしまうような気がするのです。そして、これは、実は、民主主義の原点だと私は思うのです。(このあたりはまたの号で)

私たちの暮らしを変えるのは国政!!

二つ目は、やはり大事なものは国政だと痛感します。～例えば平成元年に消費税が始まりました。そして、大金持ちや大企業からの税金は安くなり、代わりに私たち一般庶民から消費税を取るようになりました。その結果が今の格差社会です。

2016年に100万ドル(約1億1千万円)以上の資産を持つ人は国内で282万人、前年より74万人増えたそうです。

「日本の場合、国民の大半の給料は下がり、消費も下がりっぱなしなので、消費税というのは一番悪い税金なのである。その一方で、企業は内部留保を天文学的に積み上げ、億万長者が激増しているのだ。**日本で増税するのであれば、法人税や高額所得者の税金にするべきと言うのは中学生でも分かる話だ。**」(『消費税という巨大権益』大村大次郎著より)

このようなことはマスコミでは一切言われません。

今、特に若者の選挙離れが言われますが、**政治に関心なく生きていくことはできても、政治に関係なく生きていくことはできません。**国の政治を変え、地方に、庶民におカネが回るようにしないと、私たちの暮らしは良くなりません。

(地域ごとの自治の仕組みづくりも懇談会で出たことも財源がなかったらできません。)

ともに考えていきましょう。後半の2年間も精一杯頑張つていきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

投稿していただきました (50代男性) ～皆様からの投稿をお待ちしています～

私は約2年前にこの千種町に移住し、農園とcaféを経営しています。それまでは32年間、飲食業のサラリーマンとして近畿、北陸を転々としていました。

10年ほど前の頃でしょうか?ある疑問がわいてきたのです。それは…飲食業に携わっていながら、使用している食材について「いつ、どこで、だれが、何を、どのように作っているのか?わからない」ということです。企業として全ての食材は本部で一括管理され、守秘義務があり現場レベルではわかりませんでした。

それなら、自分で胸を張り、自信を持ってお客様に提供できる食材(無農薬野菜)を作ろう!と考えました。そして、得意の飲食業(加工品を含むcafé)と並行して農業をすることで歩留まりを良くし、効率良く、美味しい野菜をお客様に届けよう!と思い、準備をしてきました。

そして、農業を始めて目の当りにしたのは、体力的なしんどさ、思い通りに栽培できない辛さでした。しかし、これらのことは自分の未熟さであり思考と経験で改善の余地はあります。

それよりももっと大きな問題だと思うことは、「良き田舎の風景」がなくなりつつあるという現状です。周りの山は荒れ、耕作放棄地が増え、草がぼうぼう、猪や鹿、猿が昼間から出没し、獣害に悩むご近所の人たち…。子供もどんどん減っています。このまま20年、30年経過すれば「良き田舎の風景」がなくなるのではないかという危機感が湧いています。

なぜ、こんなことになってしまったのか?従事する人

の高齢化が一番が大きな理由だと思いますが、農業をするまでは農家の怠慢とっていました。農業を生業にする努力が足りないのではないか?競争に負けているのではないか?そう考えていました。

しかし、「その考え方は間違っているんだ!」ということに最近気づかされました。よくよく考えてみると、たとえ自分1人が成功し、農地を拡大して耕作放棄地をなくしても所詮、自分1人でできる農地はたかがしれています。耕作放棄地の問題は1人では解決出来ないのです。害獣の問題にしても山を作り直し、すべての山に柵をするなどの対応をしなければなりません、これも1人では出来ません。

では、どうすればよいか?を考えた時、最終的には農家同士の競争をなくし、多くの若者が農業に従事し、それを生業にできる仕組みを作るしか「良き田舎の風景」を維持することはできない!そう考えるに至りました。

20年後、30年後の未来の子供たちのために、この田舎を再生させなければ、日本自体の未来がなくなるといっても過言ではありません。「村が荒れ果ててなくなり、外国からの言いなりにならなければ生活ができない日本になってしまう!」そんなことを考える今日この頃です。

そして、そんな自分に今、出来ることは目の前の野良仕事をしっかり頑張り美味しい野菜を作ること、そして、そのことと並行して、もっともっと多くの若者が農業を生業と出来る仕組み(所得保障)作りと移住を促進する取り組みを進めていきたいと考えています。

最後までお読みいただきありがとうございました。ご意見、ご感想、ご指導、・・何卒よろしくお願い申し上げます。

次号は・・・精一杯早く出します。どうぞ期待!!(笑)